

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	・就職希望生徒の就職一次試験合格率向上 ・就職定着率の向上 ・志願者数の募集定員比率の向上
計画名	工科高校の活性化をめざし、プロフェッショナルをめざす中学生の開拓を進める

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2 工業教育の充実 (1)「深化と接続」の理念を生かした工業教育を推進する。(2)キャリア教育を一層推進し、一人ひとりの進路実現の充実を図る。ア 学年段階ごとに系統的なキャリア学習を行うとともに、一人ひとりに応じた学習環境の改善等に取り組む(就職一次試験合格85%)。イ インターンシップや企業見学、企業経営者による講演等の機会を充実し、仕事観の醸成を図り、卒業後の定着率(離職率10%以下)の向上をめざす。
事業目標	工科高校が共通で抱える下記の課題につき、本校がリーダーシップをとり事業を進める。 ・課題 ①大阪のものづくり産業基盤を支える後継者の育成が工科高校の使命である、後継者不足に悩むものづくり現場に優秀な人材を輩出するため、工科高校を志願する生徒を積極的に開拓する必要がある。 ②就職希望者の一次試験合格率が79%(H27実績)にとどまっている。 ・中学生、その保護者や中学校教員向けに工科高校の実情、魅力を伝えるDVDやリーフレットを作成する。 ・中学校訪問や、中学生を招く体験授業において、中学生のみならず保護者、中学教員にもDVDやリーフレットを活用し、「ものづくり」について、現状と魅力を発信する。 ・ものづくりに興味を持つ中学生を開拓し、工科高校にその中学生が志願し入学することにより、一層教育の質が向上し、企業が求める人材育成が促進する。 ・堺工科では就職希望者の一次試験合格率85%以上とする。また、3年以内の離職率を全国平均の10%以内を維持する。
整備した 設備・物品(数量)	・ノートPC(1台) 中学校訪問や中学進路指導者の会議などで、広報活動を行う際に使用する。また体験授業等に保護者、中学校教員を招いた際、従前のように会議室等で説明会を行うだけでなく、実習現場でも実施することにより、より一層「ものづくり」の魅力を伝えることができる。 ・PR映像 ・リーフレット(5000部)
取組みの 主担・実施者	取組みの主担:企画会議(校長、教頭、事務部長、普通科科長、各専門系系長) 取組みの実施者:全教員
本年度の 取組内容	1. 府立工科高校の魅力発信PR映像及びリーフレットの作成 ・平成28年6月から8月、業者委託により工科高校の実情、魅力を伝えるPR映像とリーフレットを作成した。 ・このうち、PR映像については教育庁と連携し、教育センターのサーバーを借用して8月19日から「Be Professional 大阪府立工科高校魅力化推進プロジェクト」ホームページを立ち上げた中で公開した。 3月15日までのアクセス数は、12,248件であった。 ・リーフレットについては、7月24日に開催された公立高校進学フェアで配布するとともに、別途工科高校において財源を捻出し8万部印刷の上、府内中学3年生全員に配布した。さらに、各工科高校において、近隣中学校訪問時に中学校教員を対象にリーフレットを活用した広報活動を行うとともに、中学生や保護者の体験授業時にも活用した。 2. ノートPCの活用 ・本校においては、8月22日～23日の中学生の体験入学や10月29日の学校見学会など学校内での活用だけでなく、8月28日の旧第4学区合同説明会(堺市)、9月10日の和泉市進学フェア(和泉市)、10月30日の公立学校進学説明会(泉大津市)などの場において、ノートPCを活用して、学校紹介ビデオや「府立工科高校の魅力発信PR映像」を放映し、工科高校やものづくりの魅力発信に努めた。
成果の検証方法 と評価指標	①就職希望生徒の就職一次試験合格者を81%に引き上げる(平成27年度 79%) ②就職後3年以内の離職率を全国平均(H27実績は10% 全国工業校長会調査)以下とする。 ③志願者数を募集定員数の100%とする。
自己評価	※(記号説明)大きく上回った(◎)、上回った(O)、達成できず(△)、実施できず(x) ①就職希望生徒の就職一次試験合格率については、27年度と同じく79%に留まった。(△) ②就職後3年以内の離職率については、本事業における成果が生まれてくるのは数年先であり、3年後に検証するため現時点においては評価の対象外とする。(一) ③平成29年度入学志願者数については、募集定員を大きく上回り、109%となった。これは、全教員が一丸となって工科高校の魅力や中学生や中学校教員などに伝えていった結果であるとともに、その際に本事業による成果物を有効に活用したためと思われる。(◎)
次年度に向けて	(課題と取組み) 1. 本校においては、今年度整備した物品やPR映像等の成果物を活用し、今年度、学校全体で取り組んできた。中学生や保護者、中学校教員などに対する工科高校の魅力発信を引き続き継続し、ものづくりに興味を持つ子どもたちの開拓にあたる。さらに、就職一次試験合格率向上をめざし企業が求める人材育成に向けて、生徒一人ひとりに合ったきめ細かい学習指導や進路指導の充実を努める。 2. 工科高校全体としては、教育庁とも連携し、公立学校進学フェアや大阪府産業教育フェアなど、様々な機会を捉え、工科高校の魅力発信に努める。